

600年の歴史を誇る「からむし」栽培 伝統を引き継ぐ村外出身の「織姫」たち

天然繊維として古くより伝わる「からむし」は、小千谷縮布、越後上布の原料として有名であるが、現在は織物産業の衰退と技術継承の危機に瀕している。昭和村では「からむし」の生産技術の継承・製品加工と後継者育成を目的として「からむし織体験制度（織姫・彥星）」を発足し、村外から若者を集い、地域の振興を図っている。



背景と課題

着物産業の衰退に伴う消費減少

昭和村では「からむし」が、室町時代から栽培されるようになったといわれており、重要な換金作物として地域経済に大きな貢献をしてきたが、昭和に入り、戦争の食糧難によるからむし畑の作物畑への転作方策や、安価な化学繊維の発達によるからむしの需要減少、着物産業の衰退等により、昭和村は販売先を失い、その結果、村での雇用の場が縮小し、若者の村外への流出と高齢化が急速に進んできた。

そのため、伝統産業の復興と、若者をはじめとした都市部との人材交流が喫緊の課題とされ、このような課題解決に向けて村民たちが立ち上がり、村の存続をかけた一大事業として「からむし織事業」を開始した。



取組のきっかけ

からむし「織」事業の立ち上げ

村の高齢化に歯止めをかけるとともに、再び地域を元気にしたいという気持ちから、からむしの栽培だけでなく製品加工も村内で行おうと村民たちが立ち上がり、昭和40年代に「からむし織事業」が動き出した。そこで、村内の家々から織機を集め人材を育成し、製品の販路を見出し始めたが、知名度が上がらず販売額は伸び悩み、高齢化の進行も相まって技術の継承がますます難しくなっていた。

そこで、「村内に若者がいないなら、村外から若者を募集しよう」と考え、からむしの後継者育成と村民との交流を目的として1994年に「からむし織体験制度」を発足させた。この物珍しい取組を新聞社が取り上げ、全国から多数の応募が集まった。以来、「からむし織体験制度」は16年間続いている。



昭和村役場

所在地：〒968-0103

福島県大沼郡昭和村

大字下中津川字中島652

連絡先：0241-57-2111

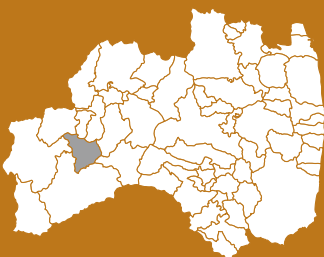
福島県昭和村

総人口：1,477人

高齢化率：55.4%

世帯数：651世帯

総面積：209.34 km²





取組と成果

からむしを軸とした多様な展開

取組 1

伝統農法・技術によるからむし原麻の生産

昭和村では室町時代から続くからむしの栽培技術を伝承し、主にかからむしを糸に加工する前の「原麻」の生産を行っている。「昭和村からむし生産技術保存協会」が主体となって、現在でも焼き畑を行い、有機肥料を用い、一本一本手で刈り取り、それから「原麻」に至るまでの複雑な工程を全て伝統にのっとり、手作業によって行っている。

取組 2

古民家の活用 ― 現実の田舎暮らしの啓発

地元のNPO法人苧麻倶楽部が主体となって「田舎暮らし体験住宅」の整備を行っている。村内の古民家を活用し、宿泊施設として貸し出しを行い、それにあわせて、からむし織や農業、山菜採り、茸狩り等の様々な「田舎暮らし体験プログラム」を提供している。

取組 3

からむし織事業

昭和村は生産した原麻を新潟県小千谷市や六日町等の織物産地に卸していたが、産地の衰退に巻き込まれ、共に衰退の一途を辿った。その状況を打開するため、昭和村の姿が見えない原材料として売るばかりでなく、製品加工までを一貫して村内で行い、「昭和村のからむし」そのものを売り出した。現在は(株)奥会津昭和村振興公社が立ち上がり、からむしの販売を拡大している。

取組 4

「からむし織体験」制度

平成6年から毎年、からむし織に興味のある若者(「織姫(女性)」「彦星(男性)」)を全国から募集し、約1年間かけてからむしの栽培から製品加工まで一連の技術を教えている。彼らは村の施設で共同生活し、事業が無い日は祭りやイベント等に参加する等して過ごし、一部はそのまま昭和村に定住してからむし織の担い手となり、一部は昭和村の看板を背負って巣立っていく。



成果

県指定重要無形文化財・国選定保存技術への指定

一時は衰退を見せたものの、地道な努力を続け、からむしにかかわる技術を一度も途切れることなく伝承してきた。やがてこれが重要な伝統文化産業の一つとして評価され、1990年、織の技術が福島県の重要無形文化財に、その翌年には、生産・苧引き(原麻を作る一工程)が国の選定保存技術に指定され、人材育成等に関して補助を得られるようになった。

昭和村への定住

「からむし織体験制度」によって昭和村を訪れた女性の内、18名の女性が研修終了後も昭和村に残って定住し、村内の男性と結婚するなどして16名の子どもを育てている。また、彼女達は現在、からむし織の担い手、技術者として、からむし織の作品を制作している。

さらに、都市住民らが「田舎暮らし体験住宅」を活用し昭和村へのプレ移住を体験することにより、理想と現実のギャップに戸惑うことなく、スムーズに昭和村に馴染むことができている。